

<今日の説教のポイント ルカによる福音書 20 章 45 節～21 章 4 節>

二つの話から二つのこと、しかし同じ結論に至ることを考えたい。

1 「人の目を気にする」生き方から「神の目を気にする」生き方へ。

イエス様がここで人々に注意を促されている律法学者の姿から、①人の目が気になっている、②功名心が非常に強い、この二つの問題点が浮かび上がって来ます。これら二つのことは、私たちの国では一概に悪いこととはされていません。人の目を気にすること、名を上げようとするのが良き結果を生む場合があるからです。しかし、「結果オーライ＝結果よければすべて良し」ではないことは、政治からスポーツまで、色んな所で起こる問題を思えば明らかです。それは他者にも本人にも苦悩を生み出します。またうまくいくように思える中で、人間に別の罪を生み出させる場合もあります（「やもめの家を食べ物にし」47）。だからこそ、私たちはこれとは違う生き方に憧れますし、憧れていいのです。イエス様はそれを示して下さったのです。では、それはどのような姿であり、何故にそれでいいと言えるのでしょうか？

「人の目を気にする」ことは「神の目を気にする」の方が大事であることを知って行くと小さくなっていきます。主はそのことを教え、また自身の姿をもって教えて下さいました（22:24-30、23:46-48）。その中で「功名心」も意味を持たなくなり、無くなって行くのです。

2 「何も持たない」のではなく「神様を一杯持っている」生き方へ。

金持ちと貧しいやもめが献金を捧げる話から、捧げる献金の額の違いが大事なのではないということは誰にでも分かるでしょう。しかし同時に、「やもめが『生活費を全部』(4)捧げたら、その先、どうして生活していけるのだろうか」と思うのではないのでしょうか。しかしそこで、「やもめは何も持たなくなった」と考えるなら、それもまた違うのです。彼女は神様を持っているのです。「何も無い」ではなくて「神様を一杯持っている」のです。彼女はそう思っているから「生活費全部を」捧げることができたのです。ここでイエス様は、「生活費全部を捧げよ」と教えられているのではなく、「どんな時にもあなたは神様を持っているのですよ。そのことをまず思いながら生きなさい」と教えて下さっているのです（マタイ 6:31-34）。神様が私たちをいつも見つめて下さっているから、私たちも「神の目を気にする」のです！